

2026年4月15日

DENSO KOBELCO SARD GR Supra 開幕戦岡山、白熱バトルの5位フィニッシュ



SUPER GT 第1戦岡山レポート



2026 SUPER GT 第1戦「OKAYAMA GT 300km RACE」(4/11-12)

岡山国際サーキット(1周3.703km)

入場者数：予選9,000名、決勝16,500名 合計25,500名

4月12日（日）、今季開幕戦となるSUPER GT第1戦「OKAYAMA GT 300km RACE」の決勝が行われ、5番グリッドから勇猛果敢に勝利を狙っていったスタート担当の関口は、序盤上位陣に食らいついていったが途中からタイヤカスが付くピックアップ現象が起きペースアップならず。他車がピットインし始めて前が空くとタイヤカスも取れてペースアップ。オーバーカット戦略で39周目にピットインするとトップクラスの素早いピットワークでサッシャを送り出す。ペース良く、前とのギャップを削るサッシャは10秒以上も差のあった前をいく14号車を76周あたりでキャッチアップ。そこから白熱のバトルを展開しチャンスとあらば猛チャージで抜きにかかったが、あと一步及ばず5位でチェッカー。ドライバーポイントは6点を獲得、チームポイントは9点を獲得しランキング5位で今季初陣を終えた。次戦第2戦は5月3日（祝・日）・4日（祝・月）に富士スピードウェイにて3時間レースとして開催される。

■事前情報

いよいよ2026年シーズンが幕開けとなる。チーム加入5シーズン目のベテラン関口雄飛と若手実力者のサッシャ・フェネストラズが2年目のコンビを組み、指揮を執り始めて7シーズン目となる脇阪寿一がチームを率いる。エンジニア/メカニック体制も新メンバーを加えて陣容を固めた。このオフシーズンテストでは、昨年のいくつかの課題を克服し、セッションベストタイムやアベレージスピードの安定など、順調に仕上げてきたDENSO KOBELCO SARD GR Supra。同地での昨年開幕戦ではクラス最後尾から逆襲の3位表彰台を獲得して昨季チームランキング3位獲得への弾みをつけた。



舞台となるのは岡山県東部の山間部・美作市にある岡山国際サーキット。4月11日（土）午前に公式練習、午後にはノックアウト方式（Q1、Q2）の公式予選、12日（日）決勝は13時20分スタートの300km（82周：約2時間）で争われ、ドライバー交代を伴うピットストップは1回が義務付け。サクセスウェイトは各車とも0kgでノーウェイトのイコールコンディションとなる。岡山国際サーキットは比較的高低差が少なく、中低速中心のテクニカルコースで幅も狭く、1周約3.7kmとコース距離が短め。手の届きそうな目の前で迫力のあるドライビングや追い越しシーンが見られ、スリリングかつエキサイティングなサーキット。山間部にあるため、この季節は遅めの桜がコースサイドを彩る美しさも楽しめる。開幕スタートダッシュを決めるべく、開幕戦での3年連続表彰台を狙うDENSO KOBELCO SARD GR Supra。脇阪寿一監督のもと、今季初陣でチーム一丸となって持てるチカラのすべてを振り絞り、勇猛果敢に勝利を目指していった。

■公式練習走行

11日（土）9時30分から開始された公式練習走行は、気温18度/路面温度24度の快晴で春の暖かさを感じるコンディション。最初の85分間の混走セッションでは関口が、まず持ち込んだ中でハード側のドライタイヤを装着して車両セットとタイヤの確認を行い、車高などの微調整を進めた後、11周目に1分19秒469の3番手タイムをマーク。その後も若干の調整を続け、再び17周目に1分19秒415と再びベストタイムを刻む。続いてサッシャが19周目からステアリングを握ってクルマの感触をチェック。日が高くなるとともに路気温も上昇する中で、比較的安定した速いペースでのロングラン評価を続け、FCYテストも含め混走セッションはトータル47周と走り込み、関口が17周目にマークした1分19秒415のタイムで3番手となった。



その後に行われた10分間のGT500単独セッションでは更に路気温が上昇し、気温22度/路面温度30度に。サッシャは新品のソフト側のドライタイヤを装着して予選のアタックシミュレーションを実施。4周目にまずは1分18秒986のトップタイムをマーク。続けて5周目もアタックを試み、さらに0.3秒ほどタイムを削り、1分18秒635と堂々のトップタイムをマークした。サッシャは「結果としていいタイムを出すことができ、内容そのものに手応えがあった。とはいえ、一番大事なのは予選。オフシーズンのテストでもセットアップでいいものが見つかったし、ポテンシャルも上がってきたと感じてる」とコメントした。

■公式予選

■Q1：関口が5番手タイムでQ2進出へ

11日（土）7分遅れの14時40分から開始されたQ1は気温25度/路面温度37度とさらに路気温が上昇。関口は持ち込んだ中でハード側のタイヤを装着して残り8分半ほどでコースイン。公式練習からQFに向けて若干の合わせ込みをした中、しっかりとタイヤを温めるウォームアップを4周実施。予定通り5周目にアタックに入ると、セクター1で全体ベストをつけていく関口。続くセクターもトップクラスのセクタータイムで駆け抜けた関口は1分18秒085の2番手タイムを叩き出す。次周もアタックを試みたところ、残り40秒ほどでクラッシュ車両があり赤旗中断に。Q2進出に十分なタイムであるのと、予選赤旗中の許可作業項目も不明確で当該担当オフィシャルに作業の確認したが回答もらえず。タイヤも温存したいこともあって再開のQ1残り4分間は走らずに。結果は1分18秒085の5番手タイムでQ2進出を果たした。



■Q2：サッシャがQ1タイム更新の5番グリッドを獲得

11日（土）15時32分から開始されたQ2は気温25度/路面温度36度と、Q1とほぼ同じコンディション。Q1を走った関口のアドバイスでクルマをアジャスト。持ち込んだ中でハード側のタイヤを装着し、残り8分半ほどでサッシャがコースイン。丁寧にタイヤを温めるウォームアップを実施していった。5周目にアタックに入ったサッシャは、セクター1で関口のタイムから若干遅れたがセクター2で取り戻していく。5周目のタイムは1分18秒419と十分ではなく、続く6周目もアタックを敢行。セクター1は更新ならずともセクター2で全体ベスト、セクター3でもタイムを削り、1分17秒722で5番手グリッドを獲得した。



■決勝

■ウォームアップ走行

12日（日）11時50分から開始された20分間のウォームアップ走行は気温23度/路面温度37度の快晴で非常に暖かいコンディションに。最初に関口が7周走行。ピットワークシミュレーションを行い、続いてサツシャが8周目からチェッカーまで走行。ウォームアップはトータル11周を走行して、関口が6周目にマークした1分20秒347の5番手で決勝への準備を整えた。

■決勝レース

第1ステイント：関口がステイント後半ペースアップ

12日（日）、13時20分決勝スタート時点は気温24度/路面温度39度と、この季節としては特に路面温度が高い暖かいコンディション。岡山県警察先導のパレードラップと、フォーメーションラップの後に今季の熱戦の火蓋が切って落とされた。スタート担当の関口はオープニングラップのバックストレートで出足の速かった12号車にかわされ6位となるも上位陣に食らいついていく。300クラスをラップダウンすることからタイヤカスが付くピックアップ現象が起き始め、なかなか取れずにペースアップならず。ライバル勢がピットインし始めた30周付近から前が空くと、タイヤカスも取れてペースアップ。他車のピットイン後のペースやトラフィックを見ながら、オーバーカット戦略を敢行して39周目にピットへ関口を呼び戻した。



第2ステイント：サツシャが終盤に白熱バトル

約31秒ほどのトップクラスの短いピットワークで1台をかわして戦列に復帰すると、サツシャは抜群のペースで前を追いかけた。速いペースで前とのギャップを削るサツシャは、ピットアウト直後は10秒以上も差のあった前をいく4位の14号車を76周あたりでキャッチアップ。そこから最後まで白熱のバトルを展開。一進一退の攻防の中でチャンスとあらば猛チャージで何回も抜きにかかったが、あと一歩及ばず、5位でチェッカー。表彰台にこそ届きはしなかったが、昨年から格段に進歩して次につながる開幕戦となった。



ドライバーポイントは6点を獲得、チームポイントは9点を獲得しランキング5位で今季初陣を終えた。次戦第2戦は5月3日（祝・日）・4日（祝・月）に富士スピードウェイにて3時間レースとして開催される。

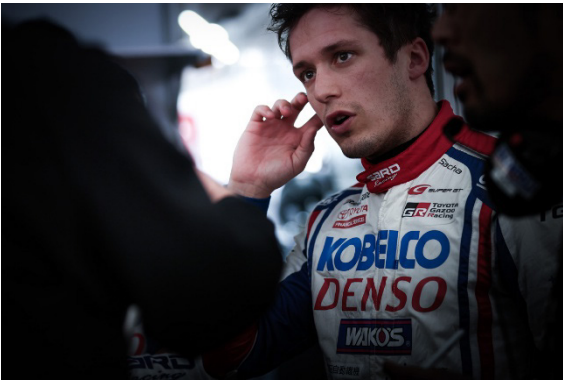


■ 関口 雄飛



「チームのみんなが開幕に向けてしっかり準備をしてくれて、公式練習走行の走り始めから非常に手応えを感じていました。決勝は途中からピックアップがなかなか取れずにペースが上がりませんでした。他車がピットインして前が空くとタイヤカスも取れてペースを上げられました。ステイント終盤はポテンシャルを出し切れて本来のペースでレースが出来たと思っています。次の富士までに、まだまだやらなくてはいけないことがありますが、富士で結果を残せればと思います」

■ サツシャ・フェネストラズ



「最後までもう少しでポジションを上げられればと思うと悔しいけど、今週末を通じて良い闘いができたと思う。昨年からのいくつかの課題はクリアしてクルマは格段に良くなってきています。ピット作業もとても速くて新しいメカも頑張ったと思う。前半のことを後半の自分のステイントにフィードバックしてくれて、本来の速いペースで走ることができました。全体としては細かいところで次の3時間の富士での戦いを考えると改善しなければいけないこともあるので、しっかりと準備していかなければと思う。次の富士もガンバリショウ！」

■ 監督 脇阪 寿一



「表彰台にこそ届きませんでしたが、昨年からのクルマに対する理解が更に深まって今シーズンが楽しみです。またメカニックもメンバーが一部変わった中で、それを感じさせない良い雰囲気の仕事をしてってくれています。雄飛とサツシャに次の富士で暴れてもらう様に細かな課題を解決して次に挑みます。引き続き、第2戦富士もどうぞよろしくお願いします」

Qualifying Result

Pos.	No.	Car	Driver	Best Time	SW
1	38	KeePer CERUMO GR Supra	大湯 都史樹／小林 利徠斗	* 1'17.352	0
2	36	au TOM'S GR Supra	坪井 翔／山下 健太	* 1'17.417	0
3	14	ENEOS X PRIME GR Supra	福住 仁嶺／大嶋 和也	* 1'17.481	0
5	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛／S.フェネストラズ	* 1'17.722	0

天候：晴れ、コース：ドライ、Timeの*はQ2ベスト

Race Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time/Diff	Laps
1	36	au TOM'S GR Supra	坪井 翔／山下 健太	1:54'38.677	82
2	38	KeePer CERUMO GR Supra	大湯 都史樹／小林 利徠斗	+19.602	82
3	12	TRS IMPUL with SDG Z	平峰 一貴／B.バゲット	+22.013	82
5	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛／S.フェネストラズ	+31.537	82

天候：晴れのち曇り、コース：ドライ、3.703km×82Laps

Drivers Ranking

Pos.	No.	Driver	Total
1	36	坪井／山下	20
2	14	大嶋／福住	16
3	39	関口／S.フェネストラズ	11

Point standings after Rd.1

Team Ranking

Pos.	No.	Team	Total
1	36	TGR TEAM au TOM'S	23
2	14	TGR TEAM ENEOS ROOKIE	18
3	39	TGR TEAM SARD	14

Point standings after Rd.1

Partners



情報参照先

- サード公式サイト : <https://www.sard.co.jp>
- 

[X](#) [Facebook](#) [Insta](#) [threads](#) [YouTube](#)
- SUPER GT : <https://supergt.net/jp>



■ 本リリースに関するお問い合わせ先：チーム広報担当：宮本 e-mail: media@sard.co.jp

SARD

株式会社 サード

〒473-0914 愛知県豊田市若林東町上外根50
TEL. 0565-53-1166 FAX. 0565-52-5482

www.sard.co.jp